

実践報告

北海道における車椅子ソフトボールの活動と 大学ゼミの関わりについて

青野純貴（北翔大学生涯スポーツ学部スポーツ教育学科）

長谷川祐樹（北翔大学生涯スポーツ学部スポーツ教育学科）

淡路貴之（北翔大学生涯スポーツ学部スポーツ教育学科）

当ゼミの 主な活動内容

主なテーマ:ベースボール型競技に関する活動

①野球教室 ～野球を通じた地域貢献～

- イベント運営
- コーチング

②車椅子ソフトボール ～野球×障害者スポーツ～

- 北海道チーム(ノースランドウォーリアーズ)のサポート
- 日本車椅子ソフトボール協会のサポート

①野球教室

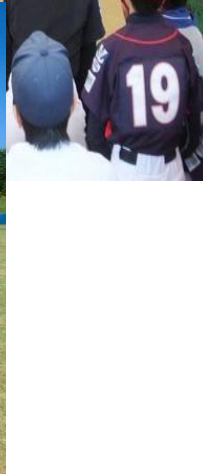
年に5～10回程度

<マネジメント>

- ・名簿作成
- ・イベントプログラム発行
- ・グループ分け
- ・運営方法の計画
- ・当日の運営 など

<コーチング>

- ・メニュー作成
- ・指導実施
- ・体力測定 など



①野球教室

地元の少年野球チームに野球の技術や練習方法を指導し、することで、地域のスポーツ活動に貢献したいと考えている。

技術だけではなく、対象に合わせた指導方法を提案することや、特に小学生には「楽しむ事」を伝えることを大切にしている。

また、実際に学生が指導することで、将来教員を目指す学生にとっては現場実習として貴重な機会となっている。

②車椅子ソフトボールの活動

野球ゼミ活動の一環として、障害者スポーツに焦点をあて、2008年から『ベースボール型車椅子競技の開発と普及』に関する研究を始めた。『車椅子野球』開発や『車椅子ソフトボール』の普及などを行ってきた。現在は、『車椅子ソフトボール』を中心に活動している。

北海道チーム
サポート



日本車椅子ソフトボール協会
サポート

車椅子ソフトボールとは

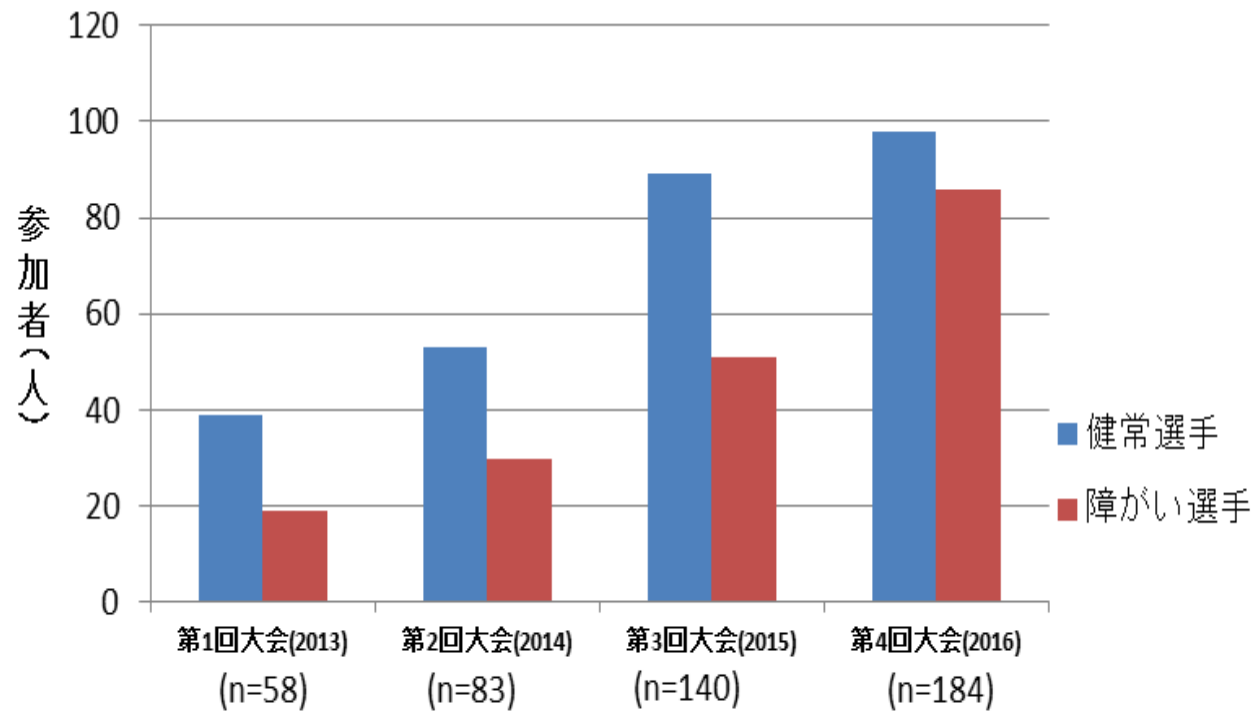
車椅子を用いて行う
“**世界で唯一**”のベースボール型車椅子競技

アメリカ発祥の競技で約40年程の歴史がある

日本では
2013年に『日本車椅子ソフトボール協会』が設立

車椅子ソフトボール 日本の現状

- 2013年『日本車椅子ソフトボール協会』設立
- 北海道・仙台・東京・埼玉・神奈川・名古屋・大阪・北九州
広島・群馬 約12チーム(約200人)
- 全日本選手権大会(毎年7月開催)
- 健常者も参加可能
- Wheelchair Softball World Series出場
- イベント(講習会、体験会、デモンストレーション)



全日本車椅子ソフトボール選手権大会の参加者推移

その他、外国の状況

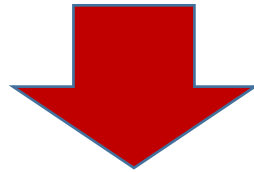
NWSA(米車椅子ソフトボール協会)によると

ベルギー、フランス、カナダ
セネガル、ブラジル、ナイジェリア

にチームがある

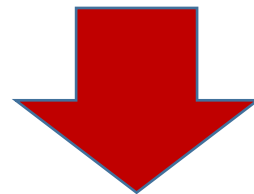
ベースボール型車椅子競技開発と普及 研究開始の背景

～『車椅子にのって野球がしたい』～



しかし

そもそも競技自体が存在していない



『野球』が“やりたくてもできない”

という現実があった

日本での始まり 2008年～2011年

2008年 ～「はじまり」～

北翔大学 生涯スポーツ学部

大西ゼミで『車椅子野球』の研究がスタート



2009年 ～「ルールの大枠が完成」～

5月『車椅子野球講習会』を実施(車椅子バスケットボール選手対象)

北九州市立大学、徳永政夫教授が同様の活動を開始した

その後、ルール改良、技術研究、用具開発など試行錯誤が続いた



2011年 ～「車椅子ソフトボールとの出会い」～

米国で普及している『Wheelchair Softball(車椅子ソフトボール)』

の存在を知り、『車椅子ソフトボール』の研究を開始した。



日本での始まり 2012年～

車椅子ソフトボールアメリカ大会 初参戦 National Wheelchair Softball Tournament(NWST)2012

2012年

日本人で唯一車椅子ソフトボール経験者である
堀江航(写真)が活動に賛同、NWSTへ参加を提案

急遽、『車椅子ソフトボール日本代表』が結成された

帰国後、
車椅子ソフトボール普及に向けた動きが非常に加速した



堀江 航

(現アイススレッジホッケー日本代表)

日本での始まり2013年

2013年

4月『日本車椅子ソフトボール協会』が設立

7月『第1回全日本車椅子ソフトボール選手権』開催

日時:7月6日、7日

場所:野幌総合運動公園 駐車場



JWSA
JAPAN WHEELCHAIR
SOFTBALL ASSOCIATION

**THE 1st
JAPAN
WHEELCHAIR
SOFTBALL
CHAMPIONSHIP**

**第1回 全日本車椅子ソフトボール
選手権大会**

2013.7.6-7
9:00-17:00 **入場無料**

場所 北海道立野幌総合運動公園
東駐車場 住所:北海道空知郡野幌町461-1

お問い合わせ
一般社団法人 日本車椅子ソフトボール協会 事務局
〒060-0801 北海道札幌市中央区南一条西1丁目1-10 東ビル
TEL:011-241-5675 Email:japan_wheelchair_softball@gmail.com 電話番号

主催:一般社団法人 日本車椅子ソフトボール協会

JWSA JAPAN WHEELCHAIR
SOFTBALL ASSOCIATION

2014年度の活動

(来場者200名以上)

『第2回 全日本車椅子ソフトボール選手権大会』

7月5日(土)札幌ドーム駐車場

全6チーム(約60人)

北海道3チーム

東京2チーム

北九州1チーム



7 JULY

	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11
13	14	15	16	17	18
20	21	22	23	24	25
27	28	29	30	31	

THE 2nd
JAPAN
WHEELCHAIR
SOFTBALL
CHAMPIONSHIP
2014

7.5 SAT
9:00-18:00
at 札幌ドーム駐車場
入場無料

JWSA.
JAPAN WHEELCHAIR
SOFTBALL ASSOCIATION

第2回 全日本車椅子ソフトボール選手権大会

2015年

『第3回全日本車椅子ソフトボール選手権大会』

7月4・5日(土・日)千歳アウトレットモールレラ駐車場(北海道千歳市)

全8チーム(約140名)

北海道3チーム

東北1チーム

東京2チーム

神奈川1チーム

北九州1チーム



7/4・5 10:00 17:00 第3回 全日本車椅子ソフトボール選手権大会
千歳アウトレットモール・レラ P4 駐車場特設会場 入場無料

JWSA JAPAN WHEELCHAIR SOFTBALL ASSOCIATION

当ゼミとチームとの関わり

北海道ノースランドウォーリアーズのサポート



練習日：毎週土曜日（年間で約40回程度）

ゼミ活動：ゼミ生は選手とスタッフに分かれて活動している

選手

- ・チーム強化
- ・技術向上
- ・トレーニング
- ・体力測定 など

スタッフ

- ・チームサポート
- ・用具の管理
- ・車椅子のメンテナンス
- ・連絡網作成 など

当ゼミと協会との関わり

過去最大級のイベント

『第4回全日本車椅子ソフトボール選手権大会』

『第1回ワールドチャンピオンカップ(アメリカ・日本・韓国)』



の運営サポート

企画

- ・概要
- ・スケジュール確認調整
- ・必要用具類確認
- ・運営計画(役割分担)

広報

- ・ポスター貼り
- ・イベントでPR
- ・SNSを用いた宣伝

運営

- ・会場設営
- ・当日の運営
(審判・スコア・アナウンスなど)
- ・会場撤去

それぞれの役割を明確にし、各業務に分担し運営に望んだ

役割① 会場設営



役割② 審判

大会前に審判講習会を行い、ルールやジャッジについて学び、大会に備えた。



役割③ アナウンス

選手交代、イニング、得点などのアナウンスを行う。

マニュアルを作成し、試合で不備が出ないように練習を行った。



役割④ ボールボーイ・バットボーイ

ファウルボールを回収し、
審判へボールを渡す。

バット、ストッパーの
準備・回収



役割⑤ 得点板・BSO

ボール、ストライク、アウトカウントを
ボードに点灯する。

得点をボードに貼り出す。



役割⑦ スコアと集計

各試合のスコアを付ける



打点や打率などの集計



個人賞の選定を行う



大会の反省

初の海外チームの参加もあり、大会としては過去最大規模であったが、例年以上に満足度の高い環境を作ることができた。

豪雨やその他のアクシデントを想定しきれていなかったため、対応に遅れてしまいスケジュールに影響してしまった。

次回以降は各フィールドでの連携を強化し、様々なアクシデントにも対応した運営計画を作成することや事前に行う細かい確認やミーティングを強化していきたい。

また、参加者へのアンケート調査を実施し満足度や普及課題について検討したい。

今後の展望

競技力向上

- ゼミ主催の大会を開催
- プログラムの開発
(練習・トレーニングなど)
- 車椅子に適した体力測定の実施
- ジュニアの育成
- 他競技との連携 など

数値化・分析

普及活動

- 体験会
- 広報(SNS、HP、など)
- メディアの活用
- 地域イベントへの参加
- 講演・イベント開催
(小、中、高校での開催) など

満足度・意欲調査

課題

競技者集め→競技用車椅子の確保や資金不足解消